

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価） A：十分達成できている B：おおむね達成できている C：やや不十分である D：不十分である

学校名	佐賀市立三瀬小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	・校内研究では、少人数や個人でも学習を深めることができる学習スタイルの構築を目指し、全職員が研究授業を行うことができた。今後、交流する場の工夫を取り入れ、小中一貫教育の実践として研究を深めていく。 ・「基本的生活習慣の定着」「運動習慣の定着や望ましい食習慣の育成」「学力の向上」など、家庭と連携を図りながら、児童が自ら意識して、主体的に取り組む力を育成していく。 ・地域や家庭、中学部と連携して、三瀬の地域・自然・地域人材を活用し交流しながら学習や行事を進めてきた。継続して、三瀬を愛する心を高めるとともに、コミュニケーション力、表現力の向上を目指していく。
------------------	--

2 学校教育目標	ふるさとを愛し自信と誇りをもち、未来を拓く子どもの育成 「学び・ところをつなぐ小中一貫教育の実践」
----------	---

3 本年度の重点目標	①9年間の学びをつなぐ小中一貫教育の取り組み ②志を高める教育の推進 ③学力の向上（基礎・基本の充実）と自己教育力の育成 ④一人ひとりを大切にする教育の推進 ⑤豊かな心を育む教育の推進 ⑥健やかな体を育む教育の推進
------------	--

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・児童の実態に応じて学びを深めることのできる授業の実践	○算数科において、「問題場面を絵や図で表し、交流活動の中で自分の考えを説明することができた」と回答する児童の割合を80%以上 ○「進んで1人1台端末を活用できた」と答える児童の割合70%以上	・ブロック操作、絵や図での説明等、児童の発達段階に応じた算数的活動に力を入れる。 ・児童の発達段階に応じた1人1台端末の活用場面を増やす。		・		・		・
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「道徳の授業で、進んで考えることができた」と答える児童の割合を80%以上 ○「道徳の授業によって豊かな心を育めている」と答える保護者の割合を80%以上	・道徳の授業づくりの工夫を行うとともに、保護者アンケートを実施して、指導改善に役立てる。 ・道徳の授業を年に1回以上保護者に公開する。		・		・		・
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○心のアンケートで「子どもの様子について不安なことがありませんでしたか」の問いに、「ない」と答える保護者95%以上。「嫌なことや悲しかったことがなかった」と答える児童95%以上とする。また、アンケートからでた事実については100%対応する。	・毎月、保護者・児童全員に対し、「いじめ・いのちを考える心」のアンケートを実施し、気になる事実があれば直ちに対応する。 ・児童支援、学級経営を円滑に行うため、QUTテストおよび教育相談週間を2回実施する。		・		・		・
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上	①児童のよさが発揮できる教育活動を行い、認める声掛けをし、よさをほめる。 ②キャリアパスポートの内容を工夫し、自身の姿容や成長を自己評価したり、振り返ったりすることができるようにする。		・		・		・
	○人権・同和教育の充実	○「いやなことや悲しいことがなく、学校は楽しい」と答える児童の割合を80%以上 ○人権意識を高める。	・「ほかほかの木」(よいところ見つけ)を実施する。 ・学期に1回、人権教室や人権集会を実施する。 ・異学年集団による毎朝の登校班や縦割り班活動を実施し、児童間の交流を図る。		・		・		・
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ③「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で300分以上の児童生徒80%以上 ②「健康に良い食事をしている」児童90%以上 ③児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする。	①縦割り班での遊びの時間を定期的に設けるとともに、縄跳び大会等を実施する。休み時間の外遊びを推奨し、個々の健康維持と体力の向上を図る。 ②給食の時間等の指導を通して、食育を推進していく。 ③年度の早い時期に交通安全教室を開催し、安全な自転車の乗り方や歩き方の訓練を行ったり、地区児童会、集団登下校、学級活動の中で継続して指導したりする。		・		・		・
	○基本的生活習慣の定着	○毎週、週のはじめに生活チェックを実施し、「ハンカチ・ティッシュを持っている」「爪を切っている」「朝ご飯を食べたべている」のすべてが○の児童を90%以上にする。 ○1日3回歯を磨く児童を80%以上にする。	・週1回生活チェックを実施する。 ・6月に歯みがきがきんばり週間を設定したり、長期休業中の歯みがきカレンダーを配布したりして、歯みがきの習慣化を図る。 ・歯科校医と連携し、歯と口の健康指導を実施する。		・		・		・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・職員各自に時間外勤務の月平均40時間以内を目標に、互いの分掌事務遂行の手立てを共有させることで、タイムマネジメントについて意識を高める。 ・会議は時間厳守で、連絡事項等は間際に行う。また、長期休業中は、会議や研修を集中して行い、教材研究、学級事務等の時間を確保し、年休取得につなげる。		・		・		・
	○職員の心身の健康	○本校独自に設定したストレスチェックを定期的に行い、ストレスサイン10項目のうち、該当するものが2項目以下の職員80%以上を目指す。	・心身の不調を防ぐために、ストレスチェックをもとに、日々のコミュニケーションを大切にし、ケアの充実を図る。		・		・		・
●特別支援教育の充実	○全職員による共通理解と校内支援体制の充実	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教職員80%以上	・特別支援教育に関する講師招聘職員研修を実施する。 ・ケース会議(スクラム会)を開催するとともに、学校支援会議を実施し、情報共有をする。		・		・		・

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○	◎ふるさと三瀬への郷土愛の育成	◎ふるさと学習を通して、「三瀬を好き」と答える児童を80%以上にする。	・地域人材を活用し、系統的なカリキュラムを実践する。 ・体験活動、調べ学習を通して、自然・産業・歴史・環境に触れさせ、ふるさと三瀬を好きな児童を育てる。		・		・		・
○	○小中合同行事の充実	○小中合同の行事、体験活動において「楽しかった」と回答する児童の割合80%以上を目指す。	・行事ごとに振り返りを書かせ、それを掲示板に貼り、交流を深める。		・		・		・

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・
--------------------	--